



閉じる



ダウンロード



印刷



文字拡大



文字縮小

芦屋市 平成２９年 ３月 定例会（第１回） 03月24日－06号

P.174 ８番（大原裕貴君）

◆８番（大原裕貴君）＝登壇＝日本維新の会芦屋市議会議員団を代表し、第２１号議案、平成２９年度芦屋市一般会計予算並びに特別会計、企業会計、財産区会計の各予算について、賛成の立場で討論いたします。

予算全体としては、費用対効果や優先順位に基づく事業の選択が迫られる中、適切なバランスでの事業選択を行い、慎重な財政運営をされている点を評価いたします。

また、今回から新たに実施されている実績ベースによる積算を行うことで、決算時の不用額を減らすという取り組みについても大いに評価をしております。

教育行政については、児童生徒の学力水準が高いレベルで推移し続けていることや、自校方式による質の高い学校給食を提供していることなど、本市で行われている質の高い教育は魅力だと感じています。

今後も教育の質を維持・向上していけるような取り組みを継続していただくこと、そして芦屋市が実施をしている教育の質の高さを対外的に発信していただくことを要望いたします。

公立幼稚園・保育所のあり方についてですが、大きな計画が急に提示されたということもあり、保護者の方をはじめとした地域の方々に大きな混乱が見受けられます。市民の皆さんに対する丁寧な説明を実施いただくよう要望いたします。

新年度からの新規事業として上げられている公共施設へのＷｉ－Ｆｉ設置ですが、この事業については評価をいたします。しかし、設置対象が公共施設であるということを考えますと、ネットワークのセキュリティー面が心配です。利用者の個人情報を守るという意味からも、利用者に対して秘密情報の取り扱いについての注意喚起を徹底していただくよう要望いたします。

また、人口流入促進の一環として、神戸市、洲本市、淡路市との共同によるシティープロモーションが実施されます。この取り組みには大いに期待するものですが、人口流入を促す大きな要因の一つでもある雇用創出のため、民間事業者が事業継続できるような支援を多方面から実施いただくよう要望いたします。

単年度の予算編成を見ますと、財政面の大きな問題はないように思います。しかし、長期財政収支見込みを見ますと、平成３０年度以降は不交付団体になることや実質収支の赤字が続くことが見込まれており、今後はさらに厳しい財政状況が続くことは明白です。

市債残高は減ってきているものの基金の取り崩しも進んでいます。仮に阪神・淡路大震災のような大災害が再び発生した場合、またも財政危機に陥ってしまう可能性は否定できない状況です。

事業を必要以上に減らすことやサービスの質を落とすことによるコストカットを進める必要はありませんが、全庁的にコストリダクションの意識を持ち、業務効率の改善などによる無駄な出費を抑える工夫をしていただくことを要望します。

また、今後も費用対効果や優先順位を意識した事業選択を継続していただき、来るべき人口減少社会に備えた慎重な財政運営を継続していただくことを強く要望し、予算案に対し賛成といたします。

以上、一般会計予算をはじめとした各種予算に対する賛成討論といたします。